

二度と現れない医療界のカリスマ



長尾和宏(ながお・かずひろ)
医学博士。公益財団法人日本
尊厳死協会副理事長としてリビ
ング・ウィルの啓発を行う。映画
『痛くない死に方』けったいな
町医者』をはじめ出版や配信な
どさまざまなメディアで長年の
町医者経験を活かした医療情報
を発信する傍ら、ときどき音楽
ライブも。

ドクター和の

ニッポン

365

「徳洲会」創設者

徳田虎雄

仕事柄、たくさんの人と握手をしてきました。握手とは不思議なもので、たった数秒のことなのに相手の人間性やエネルギーを感じるときがあります。

この人と握手をさせていただいたのは、僕が医学生だった頃。近くの大学に、講演会を拝聴しに行きました。講演の後、少しでも話がしたくて声をかけました。すると不意に手を差し出され、「君、卒業したら徳洲会に来ないか?」と言われ驚きました。あのときの手の大きさ、力強さ、体温は今でもしっかりと覚えています。

全国に76の病院と、診療所や介護事業所など300以上の施設、そして4万人の職員を抱えるわが国最大の民間医療法人グループ「徳洲会」を創設、衆院議員も通算4期務めた徳



田虎雄さんが、7月10日、神奈川県内の病院で亡くなりました。享年86。

医療界にこれ以上のカリスマはもう、現れないでしょうね。徳田さんは兵庫県生まれ。2歳のときに鹿児島県・徳之島に家族で移住します。当時の徳之島では十分な医療が受けられず、徳田さんが小学生のとき、

3歳だった弟が腹痛に苦しみながら急死しました。虎雄少年は夜道を駆けて島の診療所に往診を頼みましたが、徳田家が貧しかったこともあり、なかなか応じてもらえず手遅れになったといいます。その悔しさと怒りで、徳田さんは医師を目指します。大阪大学を卒業後、1973年に徳田病院を開院。その後、「24時間365日無休」「どんな患者も断らない」「生命(いのち)だけは平等だ」など多くのモットーを掲げ、医師会と喧嘩(けんか)しながら、徳洲会病院を無医地区に次々と創設します。そして、1990年に政界へ。

しかし2002年、64歳のときにALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断されました。ALSは運動を司(つかさど)る神経(運動ニューロン)に障害が起きることで、手足や喉、舌

を動かす筋肉が徐々にやせて動かなくなっていく難病です。視力や聴力、内臓機能などは保たれます。

徳田さんは2004年頃より病状が悪化し、翌年政界を引退。その後もしばらくは、鎌倉市内に自分が建てた病院の最上階特別室からグループを統率していたそうです。闘病20年。医療のために命を完全燃焼させたように思えます。

あのときの握手があったからこそ、僕も24時間365日、どんな患者も断らず65歳まで夢中で働き続けました。その強引な手法には賛否両論ありましたが、「生命だけは平等だ」という言葉に嘘はなかったはず

です。「子孫に美田を残さず。人生はカネではない。愛と心だ。人を相手にせず、天を相手にせよ」

こんなことを言える医者が今、他にいるのでしょうか? 僕にとって は、永遠のカリスマです。